

標高500メートルの山のてっぺん。  
世羅高原の畑から、  
農薬、化学肥料を使わずに育てた採れたての野菜をお届けします。

## 台風10号、呉に上陸

8月15日、台風10号が午後3時頃に呉市付近に上陸し、中国地方を縦断。ほぼ真上を、台風が中心が通って行きました。風は、台風が近づく前の方が強く、広島市では午前0時半過ぎに22.6メートルの最大瞬間風速を観測しました。

台風が真上を通って行ったせいでしょうか、薄日がさしてくるような時間帯もあり、台風の風対策でハウスを全て閉めきっていたので、ハウスの中が暑くなってしまいそうで心配でした。古くなっていたハウスの天井のシートが何か所か破れましたが、大きな被害はありませんでした。

## 8月末は、まるで梅雨のよう

台風10号が通過した後は、曇りや雨の日が多く、この時期には珍しく、27、28、29日と3日間、雨の日が続きました。種まきをした人参には、いい雨になりました。

雨のあい間に畑の草刈りをしたのですが、草の中からコオロギが出てくる！ 出てくる！  
いつもより早めに、人参と一緒に種まきをした大根は、芽が出たところで見事に虫たちに食われてしまっています。芽が出始めている人参が、食われてしまわないことを祈るばかり・・・です。

畑が乾いてトラクターが入ることができるようになったら、大根や白菜などのうね立てをします。

### 〈9月の野菜〉

□露地の畑では、地ばいキュウリ、ニガウリ、ナス、米ナス、緑ナス、オクラ、ズイキ、冬瓜、人参などが収穫中。  
初旬には、四角豆の収穫が始まる予定です。

□ハウスの中では、ミニトマト、スイートバジル、ししピー、ピーマン、紫ササゲ、食用ホオズキなどが収穫中。  
初旬にはカラーピーマンの収穫が始まる予定です。

- ・山本ファミリー農園の日々の様子は、フェイスブックで。
- ・畑の野菜で作った“うちのごはん”の写真は、山本ファミリー農園のブログで。  
[http://blog.goo.ne.jp/tonchan\\_sy/](http://blog.goo.ne.jp/tonchan_sy/)



### 〈ボロボロです・・・〉

台風10号の風で、サトイモの葉っぱがボロボロになりました。  
ナスの枝が倒れたり、キュウリの葉が破れたり、実が傷だらけになったりしました。



### 〈箱入りキャベツ！〉

最高気温が30℃以下になるのを待って、8月18日に定植しました。  
虫よけのネットの上に寒冷紗をかけて日よけをしました。  
虫に切られたり、葉っぱに小さな穴が開いたりしていますが、生き残っています。



### 〈そっくりだあ〜！〉

USBケーブルと紫ササゲ。  
スジがなくて軟らかいのは、紫ササゲ。  
天ぷらもおいしい！  
ハウスの中で作っています。

# 世羅台地の地質について

## 世羅台地の範囲

7月号でお伝えしたように、私たちの畑は世羅台地の西側、標高が550mの小高い丘陵地のでっぺんにあり、「粘土集積層」をもつ「風化変質赤黄色土」という土壌でできています。今月は、この土壌がどのようにしてできたのか調べてみました。

世羅台地は、大きな分類でいえば吉備高原という岡山県から広島県西端にいたる隆起準平原の一部とされています。そして、広島県内の吉備高原地域は神石高原・世羅台地・高田高原などに分類されます。右の標高別に色分けした地図で見てみると、三次市から三良坂、甲奴、上下を結ぶ線を挟んで、標高が異なっていることがわかります。この線の北東側の標高の高い地域を神石高原と呼びます。三原市から沼田川沿いに走る西北西の線、御調を通り御調川沿いに走る北東から南西に走る線、三次市から南南西方向の走る線、これら4本の線によって区切られた四角の地域がおおよそその世羅台地になります。

## 畑周辺の地質

右の図は、畑周辺の地質図です。黒い線や黒い点線は断層、未確認の断層です。大部分は吉舎安山岩(③)、高田流紋岩(①)、花崗岩(②)などに覆われていますが、一部古生代の地層(④)や新生代の地層(⑤)が見られます。

日本列島が、大陸から分離して列島を形成したのが、およそ3,000万年前から500万年前ですから、畑周辺の地層はそれ以前、日本列島がまだ大陸の一部だった時代のものということになります。

世羅台地の多くに分布している中生代後期白亜紀～新生代古第三紀の活発な火山活動で形成された火成岩類は、広島県全域のみならず、近畿から北九州地方にわたり帯状に広く分布しています。

この時代の火成岩のうち、世羅台地で見られる最も古いものが③の吉舎安山岩で、この後、私たちの畑の地質でもある①の高田流紋岩が形成されました。

日本列島が大陸から分離した後の今から1500万年前には、この地域は海底にあり、その時代に堆積した地層の中からは、カキの化石などが発見されています。

その後の隆起により陸地化した後、風化が進み表面の地層がなくなっていく、再び流紋岩の地層が現れ現在に至るようです。

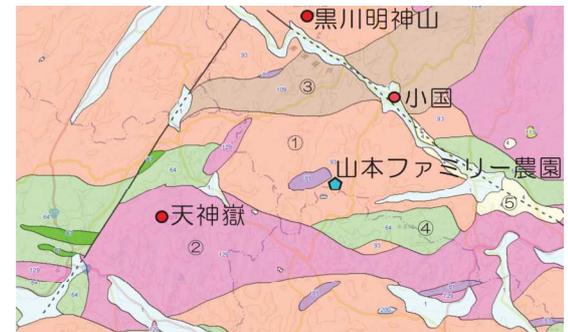
## 畑で見られる未風化の流紋岩

畑のある場所に分布している高田流紋岩は風化が激しく、流紋岩サプロライトと呼ばれる、赤土粘土となっています。その粘土の中に、まだ風化されていない核岩が点々と残っています。そのため、畑の周囲には造成時に取り切れなかった岩が斜面から突き出ていますし、畑の中から直径1m以上もある岩が出てきたり、手持ちの重機では取り出すことが出来なかった岩が埋まっていたりします。



三次と甲奴、上下を結ぶ線より北東では標高が一段と高く、府中市から三原市本郷付近を結ぶ線より南東側では、一段と低くなっていることがわかります。

世羅台地の自然発刊連絡会発行  
「世羅台地の自然 地学編」より



- ① 後期白亜紀(約1億年前～6500万年前)に噴出した火山の岩石(デイサイト・流紋岩類)・非アルカリ珩長質火山岩類
- ② 後期白亜紀(約1億年前～6500万年前)にマグマが地下の深いところで冷え固まった花崗岩
- ③ 後期白亜紀(約1億年前～6500万年前)に噴出した火山の岩石(安山岩・玄武岩)・非アルカリ苦鉄質火山岩類
- ④ ペルム紀(約3億年前～2億5100万年前)に海溝で複雑に変形した地層(付加体)
- ⑤ 前期更新世(約170万年前～70万年前)に形成された堆積岩類の地層。ナウマンゾウの臼歯の化石が発見された。

産業技術総合研究所 地質調査総合センター  
地質図Naviより

<https://gbank.gsj.jp/geonavi/#top>



畑の造成時に出てきた、流紋岩の核岩。大きく硬いため、壊して取り除くことが出来ず、法面に突き出たままになっています。畑の周囲には、このような岩が沢山あります。